平成３０年５月２８日

熊本市長　大西　一史　様

熊本市要保護児童対策地域協議会
「こうのとりのゆりかご」専門部会
部会長　山縣　文治
委　員　国宗　直子
〃　上村　宏渕
〃　安部　計彦
〃　岩井　正憲
〃　城野　匡

平成２９年度「こうのとりのゆりかご」の運用状況に関する短期的検証について

熊本市慈恵病院に設置された「こうのとりのゆりかご（以下「ゆりかご」という。)」の運用状況については、当専門部会において、６ヶ月ごとに検証を行い、別添報告書のとおり報告してきたが、平成２９年４月１日から平成３０年３月３１日までの検証結果を次のとおり総括する。

１　「ゆりかご」の運用状況について

平成２９年４月１日から平成３０年３月３１日までに「ゆりかご」には7件の預け入れがあり、預け入れにあたっての違法性の検討や、許可時の留意事項の遵守状況について次のとおり検証を行った。

（１）　違法性の検討について

平成２９年４月１日から平成３０年３月３１日までの「ゆりかご」の運用状況に刑法上の「明らかな違法性」は認められない。

なお、子どもの権利の侵害や預け入れまでの安全性を含め、今後も本部会において個別の運用状況を総合的に検討する必要がある。

（２）　許可時の留意事項の遵守状況について

（ア）子どもの安全の確保

預け入れられた後の子どもの安全確保については、特に問題の発生は確認されていない。

（イ）相談機能の強化

「ゆりかご」を使うことなく事前の相談で支援につなげることができるよう、病院としての相談業務に取り組まれている。

（ウ）公的相談機関等との連携

「ゆりかご」の運用に関する公的相談機関等との連携については、情報公開のあり方も含め、適切に対応されている。

２　専門部会で述べられた主な意見

・病院が保護者に接触できた事例について、病院が一生懸命対応されていることは理解する。今後、できるだけ接触回数が多くなるような努力を希望する。保護者との接触の必要性について、事例を通じ、あらためて病院に知ってもらう必要性があると考える。

・子どもの出自を知る権利の保障については慈恵病院とは当時から平行線であるが、「新しい社会的養育ビジョン」の中でも謳われているところで重要である。

・慈恵病院のＳＯＳ相談件数増加の要因は、インターネット等で「妊娠相談」と検索すると、検索結果のトップに病院のＳＯＳ相談が上位になるよう病院が工夫したことにより、潜在的な相談をうまく拾い上げることができていることの現れである。

３　預け入れ状況の公表

「ゆりかご」の預け入れ状況については、子どもの人権とプライバシーを守るため個人の識別につながる恐れがないことを基本として、社会的検証につなげていく観点から、公表項目について検討を行い、別紙のとおり当部会としての結論を得た。